南あわじ市を売り出そう！ 物産展に出店

西宮・大阪

▲市内の新鮮な野菜の販売

市の優れた「ふるさと資源」の広報宣伝及び販路拡大を目的に、南あわじ市特産物販路拡大・物産展協議会が、西宮市で4月21日に開催された「南あわじ&西宮とれとれ市」に参加しました。

当日は天候にも恵まれ、新タマネギを始めとする野菜は訪れた多くの人に大変喜ばれ、すぐに完売しました。そのほかにも沼島産サヨリ等のフライの振る舞いやアイスクリン、花苗、あわじ島バーガーを販売。ステージでは、三原だんじり唄保存会青年部によるだんじり唄が披露されました。文化芸能や特産品を通じて都市部の消費者に対し、市の魅力を発信することができました。

また、5月13日に大阪で開催された「御堂筋フェスタ2012」にも参加しました。同協議会では主な商圏である阪神地域での「ふるさと資源」のPRに力を入れており、そのことが評価され、今年度初めて参加することができました。

▲沼島漁協による振る舞い

▲西宮中央商店街に響き渡った三原だんじり唄保存会青年部によるだんじり唄

この日も好天に恵まれ、ゆるキャラのたまねぎさんちゃんが御堂筋パレードに参加したほか、島内の観光パンフレットの配布等を行いました。

同協議会では都市部の消費者に直接「ふるさと資源」の広報宣伝を図ること、また実際に意見・感想を聞き、今必要とされているニーズに応えることが販路拡大につながると考えており、これからも阪神地域での物産展等へ積極的に出店するとのことです。

▲たまねぎさんちゃんも参加した御堂筋パレード

緊急通報装置寄贈

▲香川正会長から中田市長へ目録が贈呈

三原ライオンズクラブから社会貢献活動の一環として、市に緊急通報装置5台が寄贈されました。

島内では、平成2年9月から淡路広域消防とともに65歳以上の援護を必要とする一人暮らしの高齢者及び重度身体障害者、並びに高齢者のみの世帯に同装置を設置してきました。これは本体とペンダントで構成され、緊急時にいずれかの押しボタンを押すと広域消防に緊急事態を知らせることができる装置です。現在、市内の187世帯で運用されており、昨年は市内で12件、島内で27件の緊急通報がありました。

同クラブでは、社会貢献活動を毎年実施しており、今年度も会員で話しあった中、近年問題となっている高齢者の孤独死を無くしたいとの思いから今回の寄贈を決定しました。

市役所中央庁舎において5月10日、同クラブ香川正会長から目録が手渡され、市から感謝状を贈呈しました。

香川会長は「高齢者の一人暮らしが増えている中で、緊急時にはいち早く連絡することが望ましい。今回の装置を役立ててほしい」と話し、中田市長が「緊急通報装置の寄贈は大変有り難く、有効に活用させてもらいます」と話しました。

▲寄贈された緊急通報装置

ふれあい市長室

市自主防災組織の南三陸町視察研修に同行

南あわじ市長　中田勝久

市内沿岸部自主防災組織代表者の方々に呼びかけ、約30人が参加して宮城県南三陸町へ5月17日視察研修を行いました。

私も、現地で参加者の方々と合流し研修や被災地の現場を一年ぶりに視察してまいりました。

被災地では、ガレキは撤去されておりましたが、土地については更地のままで、復興にはまだまだ時間が必要と痛感し、東日本大震災がこれほどまで甚大であったのかと改めて心を痛め、復興の難しさを痛感いたしました。

▲佐藤町長と研修会場で挨拶する中田市長（右）

▲研修を受ける参加者

今回の研修は、被災直後から地域の方々と共に支援活動を現在も行っておられる「すばらしい歌津をつくる協議会」の小野寺 寛会長に体験談をお聞きし、今後の南あわじ市の自主防災活動の充実を図るために計画いたしました。

小野寺会長のお話の中で、自動車で移動することの出来ない地震が発生した状況でも、津波被害をあまり受けない高台の住民の方々は、常に炊き出し等の支援を当然するものと思われており、地区の方々は自然と行動されていたとのこと。このような共助の意識と行動は、普段から地域間の交流が必要であり、また孤立地域の方々は互いに協力しあうなど、平常時の近所付き合いの大切さを話されました。

また、孤立地域への支援道路の復旧の大切さ、平時では必要がない災害時の非常持ち出し品としての「身分証明になる書類、預金通帳」や「3日程度の食料」の重要性も伝えていただきました。

▲特産の玉ねぎ・そうめんを寄贈

最後に、いつ発生するかわからない災害は一人ひとりの備えが命を守ることにつながると共に普段からの町づくりに「絆」の大切さを強調されました。

▲被災した護岸

南三陸町の佐藤 仁町長からは、昨年4月27日に当市が救援物資を届けたことや淡路人形浄瑠璃公演が住民に元気をあたえたことなど、あらためてお礼のことばをいただきました。

佐藤町長は、防災対策や復旧・復興に関して、避難行動の大切さや行政の限界、災害発生時は自助・共助の取り組みが必要であり、公助はその一助であると強調されました。

現在は、新しい南三陸町の建設に向け、どう立ち向かって行くか町民と共に前へ進んでいると私たちに力強く伝えていただきました。

南あわじ市においても、いつ発生してもおかしくない東南海・南海地震の対策として、今回参加されました自主防災組織代表者の方々が、東日本大震災で甚大な被害を受けられた宮城県南三陸町への視察研修を契機に、いかに自分の命・家族の命・地域の命を守り、防災・減災に結びつけられるよう取り組むかの指針となり、これからの地域の防災力向上に向け、リーダーとして実のある研修が出来たと思っております。ほんとうにご苦労さまでした。

▲防災対策庁舎前で黙とう